第三者評価委員会の仕組みと中部様式作成の手引き

【令和５年度改訂版】

国土交通省中部運輸局

もくじ

- ■ はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- ■ 第三者評価委員会について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4
- ■ 中部様式の位置づけ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- ■ 作成する中部様式資料早見表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6

以下、中部様式作成方法

- ■ 表紙　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
- ■ 1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・P10
- ■ 2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組　の作成 ・・・・・・・・P11
- ■ 3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察　の作成 ・・・・・・・・ P13
- ■ 4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成 ・・・・・・・・・・・・・P15
- ■ 5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・P17
- ■ 6.計画・評価の推進体制　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18
- ■ A.地域公共交通調査事業の必要性　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19
- ■ B.地域公共交通調査事業の内容と結果　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P20
- ■ C.地域公共交通調査事業の結果の活用　の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P21
- ■ 自己評価と第三者評価の関係と中部様式の記載内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・P22
- ■ 中部様式の作成と発表の留意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P23
- ■ 中部様式作成や発表の際のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P24

地域公共交通に関する取組は、定期的に効果を評価し、必要に応じて改善を行うことが求められます。そのためには各協議会において自己評価を行うことが必要です。こうした各協議会の自己評価について、有識者を交えて客観的な立場から取組の改善に向けたアドバイスをするため、中部運輸局では第三者評価委員会を平成２３年度以降、毎年開催しています。

自己評価と第三者評価の両方を継続的に行うことによって、各協議会における取り組みが段階的に改善していくことを目指しています。

本手引きは、第三者評価委員会の仕組みと第三者評価委員会に参加することとなった場合の発表資料（中部様式）の作成に当たっての留意事項等を示したものです。中部様式の作成にあたっては、これまで行ってきた**取組や事業が、地域にもたらした影響について振り返り**、得られた効果について整理することで、効果的な取り組みが行えたかどうかを確認するとともに、**今後の改善につなげることを意識**して下さい。

第三者評価委員会について

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱等に定められる事業評価に加え、中部運輸局独自に地域全体の公共交通に関する取組に対して評価、助言等を実施するとともに、令和３年度より、地域公共交通計画の評価結果も評価の対象として開催。（※令和２年度からオンライン形式により実施。）

① ネットワークの評価

「国庫補助」のみならず、地域公共交通計画の評価結果を評価の対象とし、地域全体の交通ネットワークについて評価を行い、地域全体の取組が真に地域公共交通の改善に資するか、議論している。

② 評価プロセスの公開

評価委員会の公開や、運輸局ホームページ上の資料公開により、地域公共交通の現状の可視化を目指している。

③ 多様な委員の参画

学識委員として、伊豆原 浩二氏（まちづくり達人ﾈｯﾄﾜｰｸ理事長）、松本 幸正氏（名城大学教授）、石川 良文氏（南山大学教授）、倉内 文孝氏（岐阜大学教授）、加藤 博和氏（名古屋大学教授）、杉木 直氏（豊橋技術科学大学准教授））が参画し、各分野・立場からの意見・助言を行う。

④ 広域的、モード横断的な視点での議論を実施

広域的バス路線と鉄道・コミバスとの役割分担や、危機的となっている広域的バス路線（幹線系統補助路線）への具体的な対応方針などについて議論。

第三者評価委員会の様子

第三者評価委員会の結果（過去３回分程度）、提出いただいた中部様式、様式、参考資料は中部運輸局ホームページ上で公開されています。→

https://wwwtb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/hyoka/index.html

中部様式の位置づけ

第三者評価委員会のみでなく、協議会等の取り組みを広く市民に紹介する資料としても活用ください

地域公共交通計画

① 地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針
② 計画の区域
③ 計画の目標
④ ③の目標を達成するために行う事業・実施主体
⑤ 計画の達成状況の評価に関する事項
⑥ 計画期間
⑦ その他計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

要約

中部様式

地域公共交通計画の概要について簡潔に記した上で、「**⑤計画の達成状況の評価に関する事項**」に関連することを記載するとともに、地域公共交通計画に基づく事業のうち、特に直近の1年間に取り組んだ内容を整理

（補助事業）　抜粋

本省様式 ※1

地域公共交通計画に基づく事業のうち、国補助を受けられる要件を満たすもののみを抜粋し、個別の状況について記載

※1　地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目別添１及び１－２の様式

（計画の評価結果）　抜粋

本省様式 ※2

地域公共交通計画に定めた目標を抜粋し、個別の達成状況について記載

※2　「地域公共交通計画及び地域公共交通計画の評価等の送付並びに地域旅客運送サービス継続実施計画及び地域公共交通利便増進実施計画の認定申請に係る手続について」（R5.10.12付総合政策局地域交通課事務連絡）別添４の様式

点線内の資料等を基に第三者評価委員会で評価を実施、当該評価結果を踏まえて、後日、中部運輸局が補助事業の自己評価に対して二次評価を通知、地域公共交通計画の自己評価に対して必要に応じて助言を行います。

表紙

＋

①
下記の②、③（次ページ）以外の協議会はこちら（１～６）を作成してください。
例　フィーダー、地域公共交通計画評価

1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿
2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組
3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察
4. 【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針
5. 直近2年間の二次評価の活用・対応状況
6. 計画・評価の推進体制

②
調査事業のみ実施している協議会はこちら（A～C）を作成してください。

A. 地域公共交通調査事業の必要性
B. 地域公共交通調査事業の内容と結果
C. 地域公共交通調査事業の結果の活用

※直近2年間で二次評価を受けている場合は、上記５．の資料も作成してください。

③**地域間幹線系統補助**にかかる計画を作成している協議会（昨年度と同様です）

地域公共交通確保維持事業における地域間幹線系統を行う協議会については、
「任意様式」に以下の内容を記載して下さい。

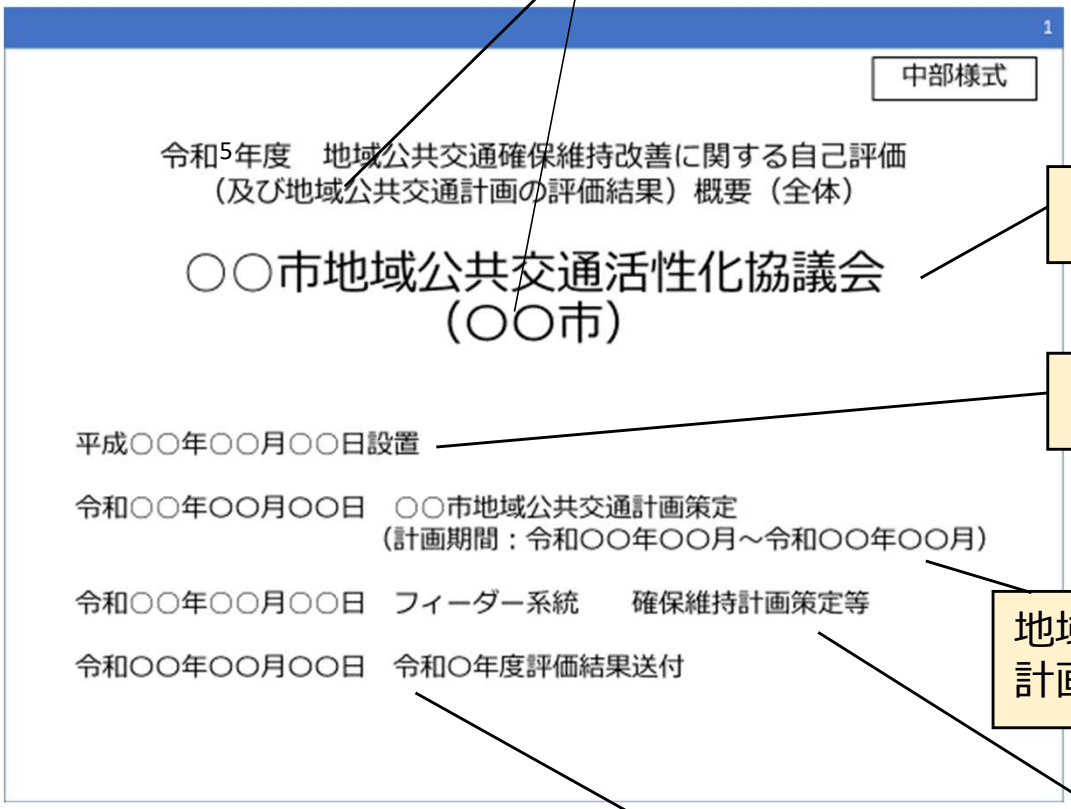
- 計画の適切性（地域公共交通計画（旧法地域公共交通網形成計画）との整合性等）
- 広域の交通網（県単独補助路線を含む。）に対する効果
- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（以下「地域交通法」という。）に基づく協議会、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に基づく協議会の活用状況（生活交通確保維持改善計画の見直し 等）
- 地域公共交通計画を策定した自治体の協議会については、計画に設定された目標の達成状況
- 事業者との協調

【その他追加資料】

- 輸送量が補助下限に近い系統（１５～２０人）、収支率が低い系統（２５%以下）については、地域間幹線分析シート
- 第三者評価委員会の場において「交通圏」単位の協議会をグループ化し評価・意見交換を行うため、交通圏ごとの概要をまとめた任意様式の資料（参加対象の交通圏に限る。）

表紙（調査事業のみ実施の協議会を除く）　の作成

（　）内は、活性化再生法第７条の２第２項に基づき地域公共交通計画の評価結果を国へ送付する場合のみ記載



協議会名を記載

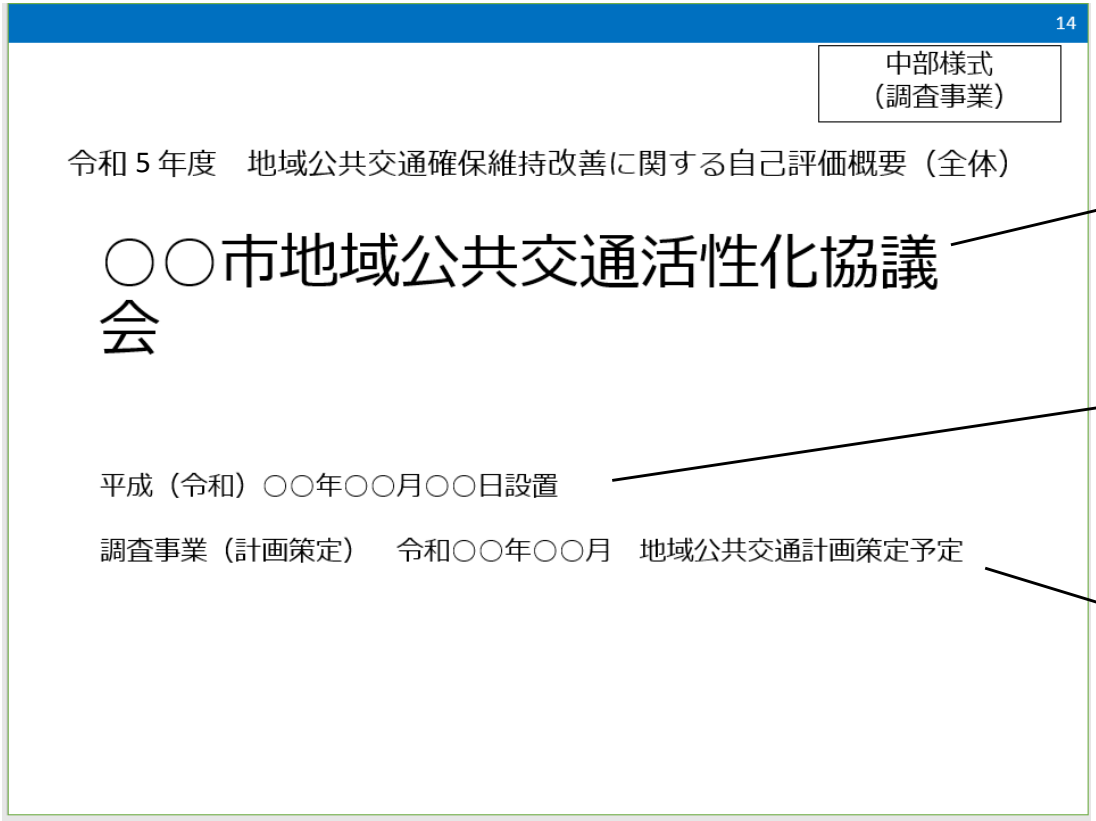
協議会設置年月日を記載

地域公共交通計画の策定日、計画期間を記載

活性化再生法第７条の２第２項に基づく地域公共交通計画の評価結果の国への送付日を記載

確保維持計画の策定日を記載

表紙（調査事業のみ実施の協議会）　の作成



協議会名を記載

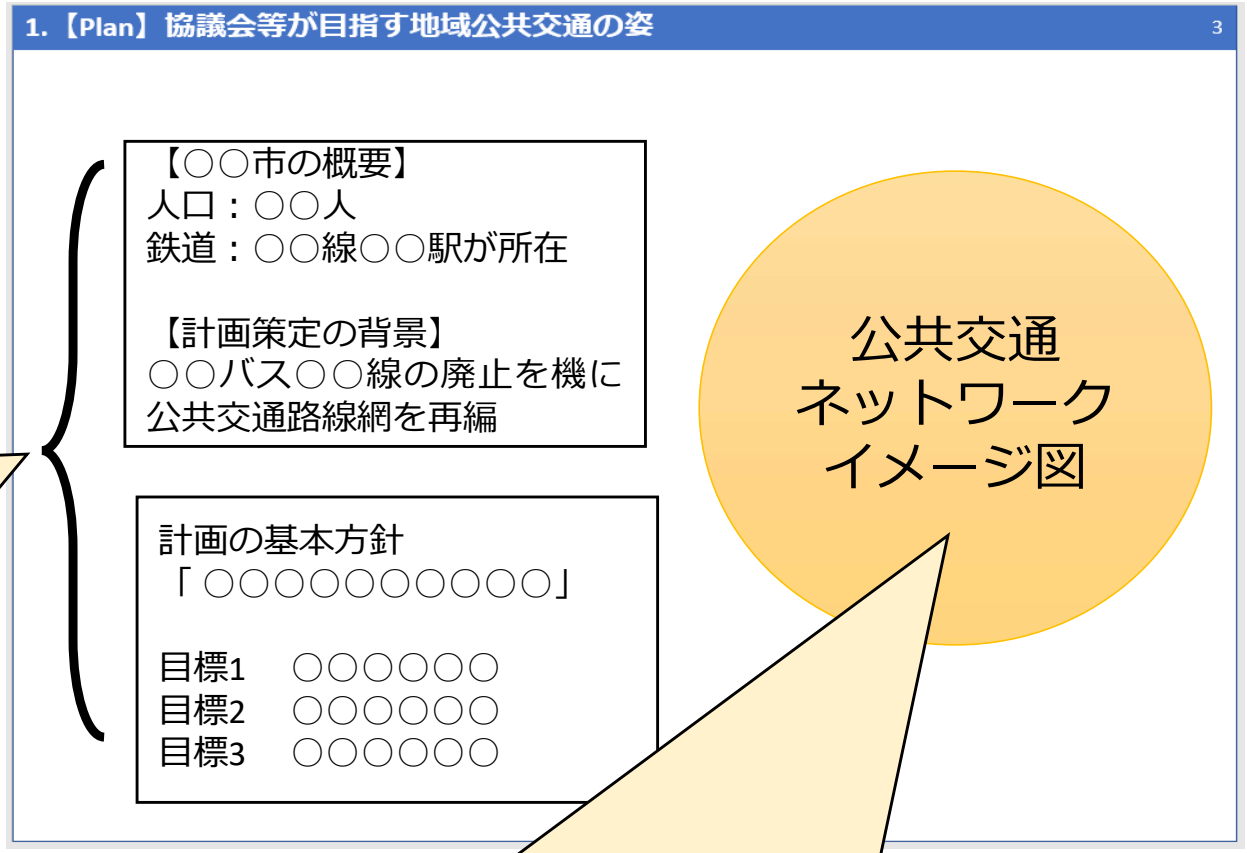
協議会設置年月日を記載

地域公共交通計画の策定日
予定日を記載

【作成のポイント】

地域公共交通計画の内容を要約して記載して下さい（計画が未策定の場合には現状及び今後予定している公共交通ネットワークの内容）

・現在の公共交通ネットワークをどのような公共交通ネットワークにしていきたいのか、そのための目標や目標を達成するための主な重点事業（施策）などを簡単に説明すると、全体の理解がスムーズになります
　なお、資料作成、発表の際は、次ページの「【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組」との繋がりを意識して作成、発表して下さい



・計画で実現を目指すネットワークのイメージ図（概要図）を掲載して下さい

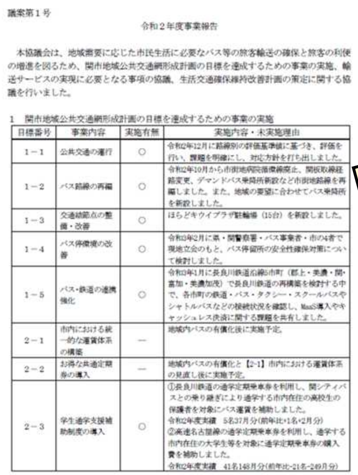
・補助対象路線のみ、コミュニティバスのみだけではなく、公共交通ネットワーク全体（域内の鉄道・民間路線バス等を含む）も含めて、地域公共交通を網羅的に記載して下さい

・地域間幹線系統補助を受けている路線バスやフィーダー補助を受けている路線は図面上で色を変えたり引き出し線を入れて明示するなど、一目で分かるようにして下さい

【作成のポイント】

協議会において各年の取組内容について報告する資料の中から、**特に重要な取組、力を入れた取組、効果があった（見込まれる）取組、アピールしたい取組、利用促進施策等**を転載すると作成が容易です。記載するのは直近2年程度の取組としてください。

取組の実施状況について協議会で報告した資料から抜粋しましょう



議案第１号

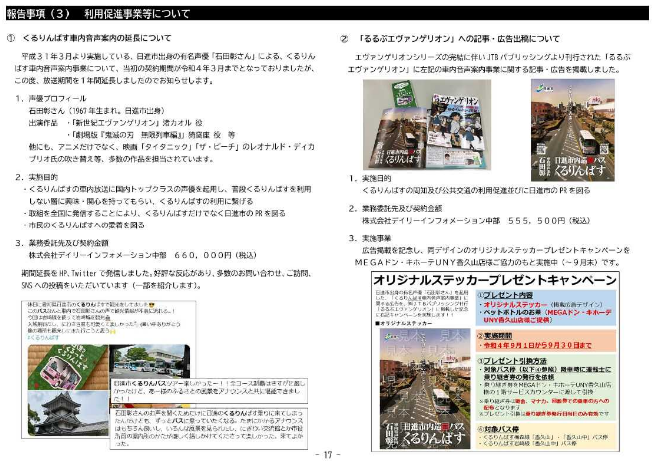
令和２年度事業報告

本協議会は、地域需要に応じた市民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保と旅客の利便の増進を図るため、関市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための事業の実施、輸送サービスの実現に必要となる事項の協議、生活交通確保維持改善計画の策定に関する協議を行いました。

１　関市地域公共交通網形成計画の目標を達成するための事業の実施

目標番号	事業内容	実施有無	実施内容・未実施理由
1－1	公共交通の運行	○	令和2年12月に路線別の評価基準値に基づき、評価を行い、課題を明確にし、対応方針を打ち出しました。
1－2	バス路線の再編	○	令和2年10月から市街地病院循環線廃止、関板取線経路変更、デマンドバス乗降所新設など市街地路線を再編しました。また、地域の要望に合わせてバス乗降所を新設しました。
1－3	交通結節点の整備・改善	○	ほらどキウイプラザ駐輪場（15台）を新設しました。
1－4	バス停環境の改善	○	令和3年2月に県・関警察署・バス事業者・市の4者で現地立会のもと、バス停留所の安全性確保対策について検討しました。
1－5	バス・鉄道の連携強化	○	令和3年1月に長良川鉄道沿線5市町（郡上・美濃・関・富加・美濃加茂）で長良川鉄道の再構築を検討する中で、各市町の鉄道・バス・タクシー・スクールバスやシャトルバスなどの接続状況を確認し、MaaS導入やキャッシュレス決済に関する課題を共有しました。
2－1	市内における統一的な運賃体系の構築	―	地域内バスの有償化後に実施予定。
2－2	お得な共通定期券の導入	―	地域内バスの有償化と【2-1】市内における運賃体系の見直し後に実施予定。
2－3	学生通学支援補助制度の導入	○	①長良川鉄道の通学定期乗車券を利用し、関シティバスとの乗り継ぎにより通学する市内在住の高校生の保護者を対象にバス運賃を補助しました。 令和2年度実績　5名37月分(前年比+1名+2月分) ②高速名古屋線の通学定期乗車券を利用し、通学する市内在住の大学生等を対象に通学定期乗車券の購入費を補助しました。 令和2年度実績　41名148月分(前年比-21名-249月分)

例：関市公共交通活性化協議会資料



報告事項（３）　利用促進事業等について

①　くるりんばす車内音声案内の延長について

平成３１年３月より実施している、日進市出身の有名声優「石田彰さん」による、くるりんばす車内音声案内事業について、当初の契約期間が令和４年３月までとなっておりましたが、この度、放送期間を１年間延長しましたのでお知らせします。

１．声優プロフィール
石田彰さん（1967 年生まれ。日進市出身）
出演作品　・「新世紀エヴァンゲリオン」渚カオル 役
・「劇場版『鬼滅の刃　無限列車編』」猗窩座 役　等
他にも、アニメだけでなく、映画「タイタニック」「ザ・ビーチ」のレオナルド・ディカプリオ氏の吹き替え等、多数の作品を担当されています。

２．実施目的
・くるりんばすの車内放送に国内トップクラスの声優を起用し、普段くるりんばすを利用しない層に興味・関心を持ってもらい、くるりんばすの利用に繋げる
・取組を全国に発信することにより、くるりんばすだけでなく日進市の PR を図る
・市民のくるりんばすへの愛着を図る

３．業務委託先及び契約金額
株式会社デイリーインフォメーション中部　６６０，０００円（税込）

期間延長を HP、Twitter で発信しました。好評な反応があり、多数のお問い合わせ、ご訪問、SNS への投稿をいただいています（一部を紹介します）。

②　「るるぶエヴァンゲリオン」への記事・広告出稿について

エヴァンゲリオンシリーズの完結に伴い JTB パブリッシングより刊行された「るるぶエヴァンゲリオン」に左記の車内音声案内事業に関する記事・広告を掲載しました。

１．実施目的
くるりんばすの周知及び公共交通の利用促進並びに日進市の PR を図る

２．業務委託先及び契約金額
株式会社デイリーインフォメーション中部　５５５，５００円（税込）

３．実施事業
広告掲載を記念し、同デザインのオリジナルステッカープレゼントキャンペーンを MEGAドン・キホーテUNY香久山店様ご協力のもと実施中（～９月末）です。

オリジナルステッカープレゼントキャンペーン

- 17 -

例：日進市地域公共交通会議

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組　5

重要なものを抜粋して掲載

※国補助事業にかかる取組については、印を付けるなどして明示して下さい

- <u>「実施した取組の概要」「実施結果」「結果の考察及び今後の展開」の関係がわかるようにすると効果的</u>です。（必要に応じて表にまとめるなどして下さい）
- 取組の実施状況がわかるような図や実施したときの写真などがあれば掲載して下さい。
- 取組のうち、地域公共交通確保維持改善事業の補助金を得たものについては印を付けるなどして明示して下さい。
- 事業のうち「フィーダー系統補助」を受給しているものは、公共交通ネットワークの中での位置づけなどについても言及して下さい。また、地域間幹線系統との接続状況（利用実態、ダイヤ設定の工夫、結節点整備の状況等）についても記載して下さい。

作成の例（表形式でまとめる場合は、写真等イメージ図も掲載して下さい）

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★コミュニティバス南都下線の運行（フィーダー補助受給系統）	コミュニティバスの運行を継続	前年に比べて利用者が1割増加（15000人⇒16400人）	利用者から要望の多かった鉄道との乗継改善を図った結果、利用が増加。
デマンド交通「のらんかー」の運行	山間部においてデマンド交通の運行を開始	昨年までの福祉バスに比べて利用者が2割増加（3000人⇒3700人）	自宅前で乗降可能となったことが評価された利用が増加。ただし、目的地についての要望が多いため、開業医を中心に目的地の増加を検討。
小学校向け乗り方教室の開催	小学生対象にバス乗り方教室を実施	市内小学校3校で実施。参加者120人	うち1校が社会見学でバス車庫を訪問するなどの副次的な効果があった。
高校生サマーフリーきっぷの販売	夏休み期間中に高校生向けのフリーきっぷを販売	8月の1ヶ月間に320枚の販売	部活、塾通いにバスを利用しやすくなったとの声が多い。
バスマップの作成・配布	市内の公共交通を網羅したマップを作成し、全戸配布	市内全戸20000世帯に広報と同時配布	配布のみで効果検証はできていないため、今後の課題として効果検証の方法を検討していく。

取組の名称を記載（補助対象の取組については★印を付けるなどしてわかるようにして下さい）

実施他取組の概要が分かるように説明

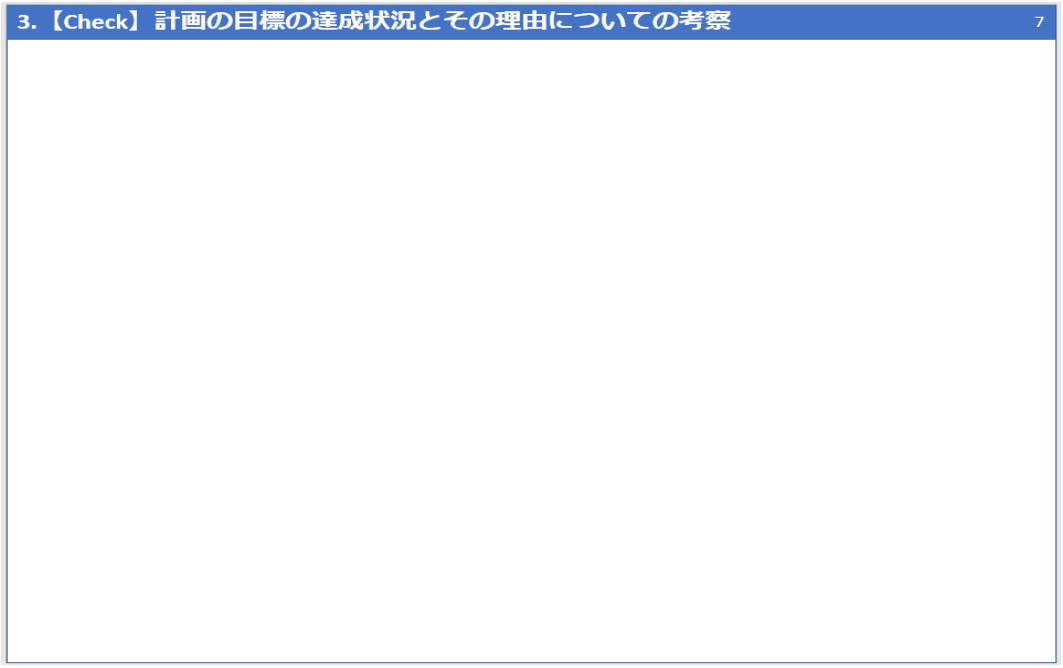
実施状況を可能な限り数値化して記載
数値化できない場合は具体的な実施結果を記載

実施結果について考察し、得られた効果について整理

実施した施策のうち、特に重要なものを赤字で強調してください

【作成のポイント】

地域公共交通計画の目標とその達成状況を測る評価指標を示した上で、各年の**達成状況**についてまとめた上で、達成・未達成となった**理由について考察**してください。



- 「目標と評価指標の関係」「達成状況」「達成状況の考察」の関係が分かるように記載して下さい。
- 計画書や協議会の自己評価資料から抜粋すると作成が容易です。あるいは、本資料を協議会における自己評価に活用いただくこともおすすめです。必要に応じて図表に整理するなどして下さい。
- 用いる数値は、実績値や推計値、調査時点の数値など、直近のものを用いて下さい。
- 過去数年間の実績値の推移をまとめておくと、目標の達成状況がより良くわかります。
- 達成状況がわからない場合や考察ができない場合はその旨をそのまま記載して下さい（評価手法について改善のアドバイスが期待できます）。

作成の例

計画目標・評価指標・目標値		達成状況					考察
		1年目	2年目	3年目（本年）	4年目	5年目	
利用しやすい公共交通の整備	利用者数 250,000人	180,000人	200,000人	220,000人			目標は未達成だが、自治会と連携した利用促進により利用増を実現した
持続可能な公共交通運営	収支率 25%	20%	22%	16%			高齢者向け割引施策の実施により、収支率が悪化
	財政負担額 3600円/人以下	3700円/人	3800円/人	3800円/人			委託費の増加によりやや目標値を達成できず
移動制約者の外出環境整備	公共交通カバー率 90%	90%	未測定	95%			新路線の整備により目標値を上回った

計画の目標
（計画から転記）

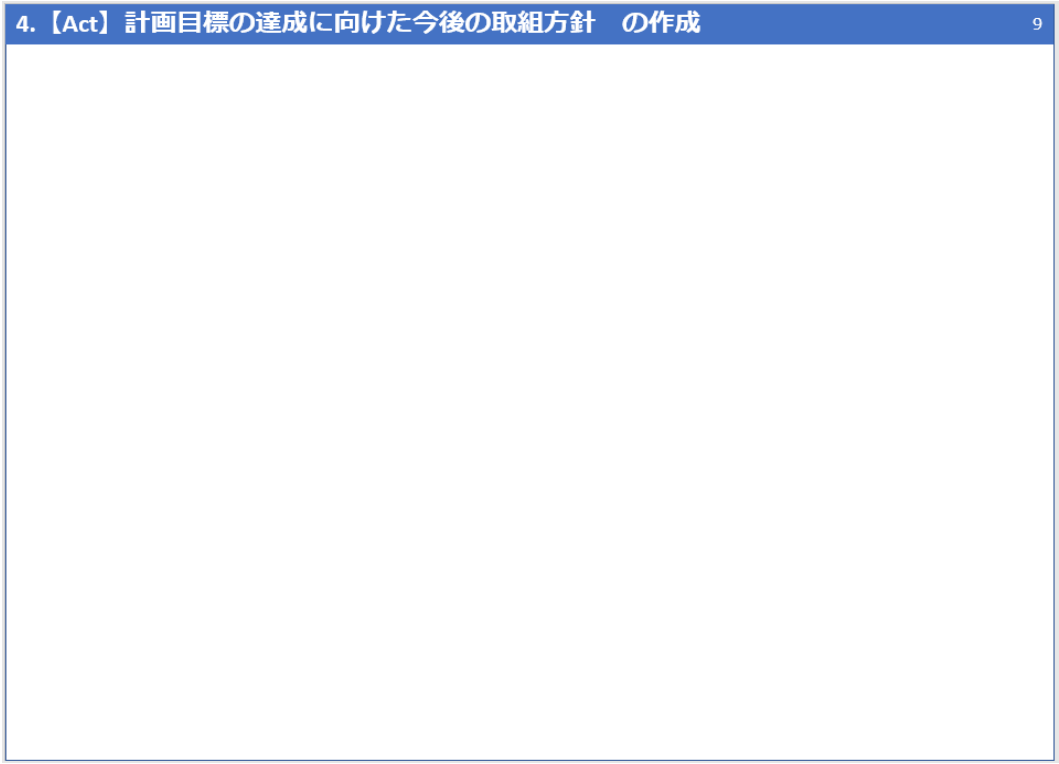
各目標に対応する評価指標と目標値
（計画から転記）

目標値の達成状況とその推移

目標値の達成・未達成の理由についての考察
「今後の方針」は次ページ（Act）で記載します

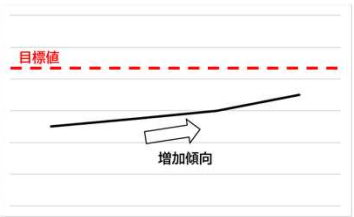
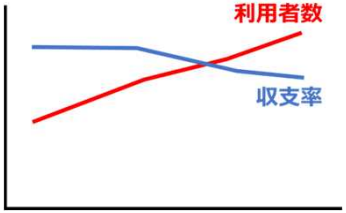
4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成

【作成のポイント】
前ページ（Check）から得られた課題、目標に対する現在の到達点を踏まえ、**今後の取組方針をスケジュールを含め**記載して下さい。



- 今後の方針は、1年ないし、これまでの取り組みの中で明らかになってきた課題を整理した上で、今後どのように対応していくかということについて、具体的に記載して下さい。なお、昨年度の実態を踏まえて、今年度に実施中もしくは実施予定の事業があれば、その内容やスケジュールも含めて記載して下さい。
- 計画の目標に対する「現在の到達点」を踏まえて、「今後の取組方針」を考えるとよいでしょう。
- 取組にあたってのアドバイスを求めたい場合には、その内容も記載して下さい。

【作成例】

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
利用者数は現状では未達成であるが増加傾向が続いている 	・自治会と連携した利用促進活動を今後も継続実施 ・来年度からは小学校向けのバス乗り方出前教室を実施することで、小学生とその親を対象とした利用促進を実施する予定 ➔以上を通じて目標年度（○年度）には目標値を達成する見込み
収支率は目標値を大きく下回っているが、利用者は増加傾向にある 	・高齢者パスの利用が想像以上に多く、客単価が低下しているが、高齢者の外出支援という目的には大きく貢献 ➔次期計画にて収支率の目標値の見直しを検討中 ※目標値としてどの程度が適切かについてアドバイスをいただきたい
財政負担額は事業者への委託額の増加が止まらず目標達成が困難	・ドライバー不足からコミバスの委託費は増額が続いている ・利用の少ない路線は乗合タクシーへの切り替えを予定 ➔一部路線での運行形態の見直しに加えて、次期計画での目標値の見直しを予定

目標の達成状況や、課題や傾向の分析内容

目標達成に向けての実施の方向性や、目標の見直しなどの方針

【作成のポイント】
過去2年間の**第三者評価結果への具体的な対応状況**を記載して下さい。予算措置などの関係で**対応できていない場合には、今後の予定を記載**してください。

※前回の二次評価がない場合は、記載不要
※前回の二次評価結果がわからない場合は、運輸支局までお問い合わせ下さい

過去2回分の評価結果について記載して下さい

評価結果への対応状況を記載して下さい。
ただし、直近の評価結果については、予算措置などの関係上、対応できていないことが想定されますので、その場合は「未対応」と記載下さい

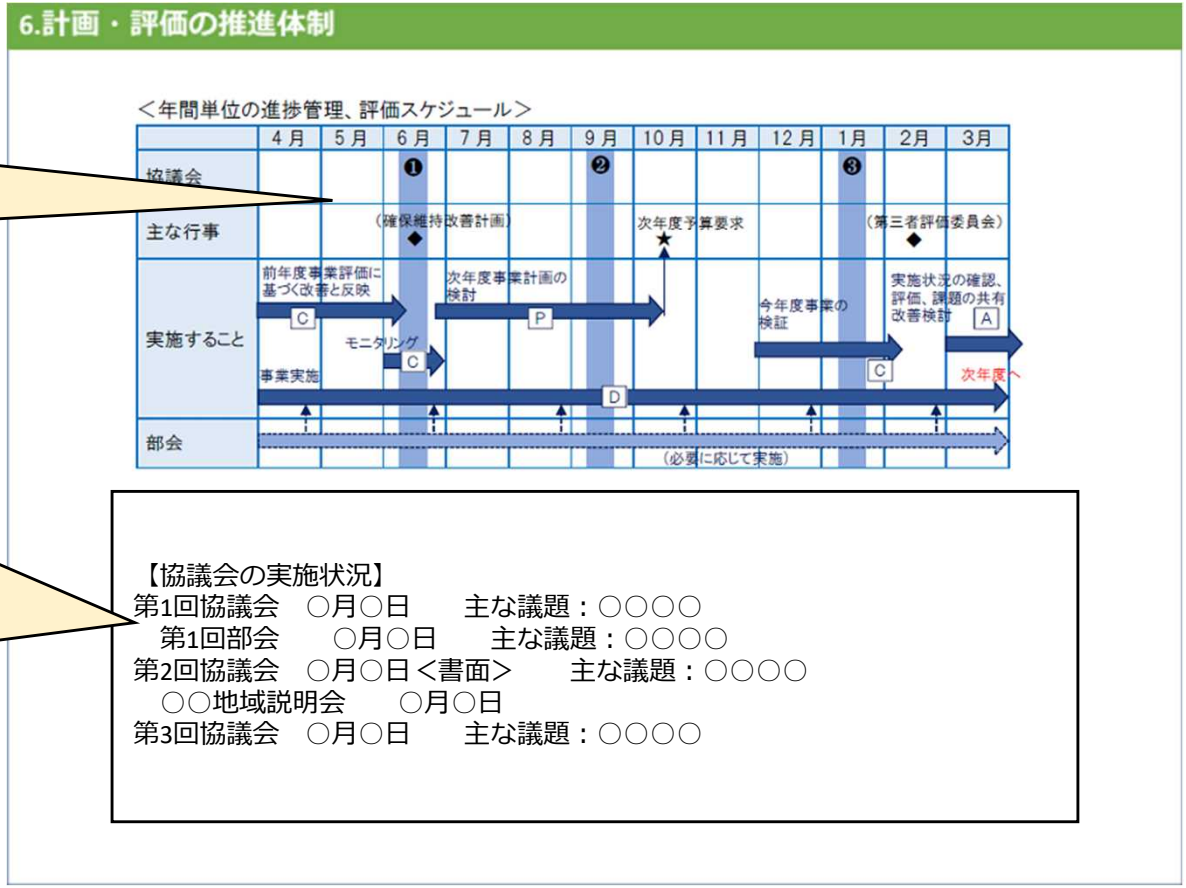
①評価結果を踏まえて施策を実施したもの
その結果を踏まえた今後の予定を記載して下さい
②未対応のもの
今後の対応の予定や方針を記載して下さい

本スライドは第三者評価委員会において発表は不要です。
（委員は事前に資料に目を通しますので、作成して下さい）

【作成のポイント】
計画の中から**PDCAの推進体制やスケジュールに関する記載を抜粋**して記載した上で、直近の**1年間の協議会開催状況**についても説明して下さい。

計画に掲げられたスケジュールを抜粋して下さい。

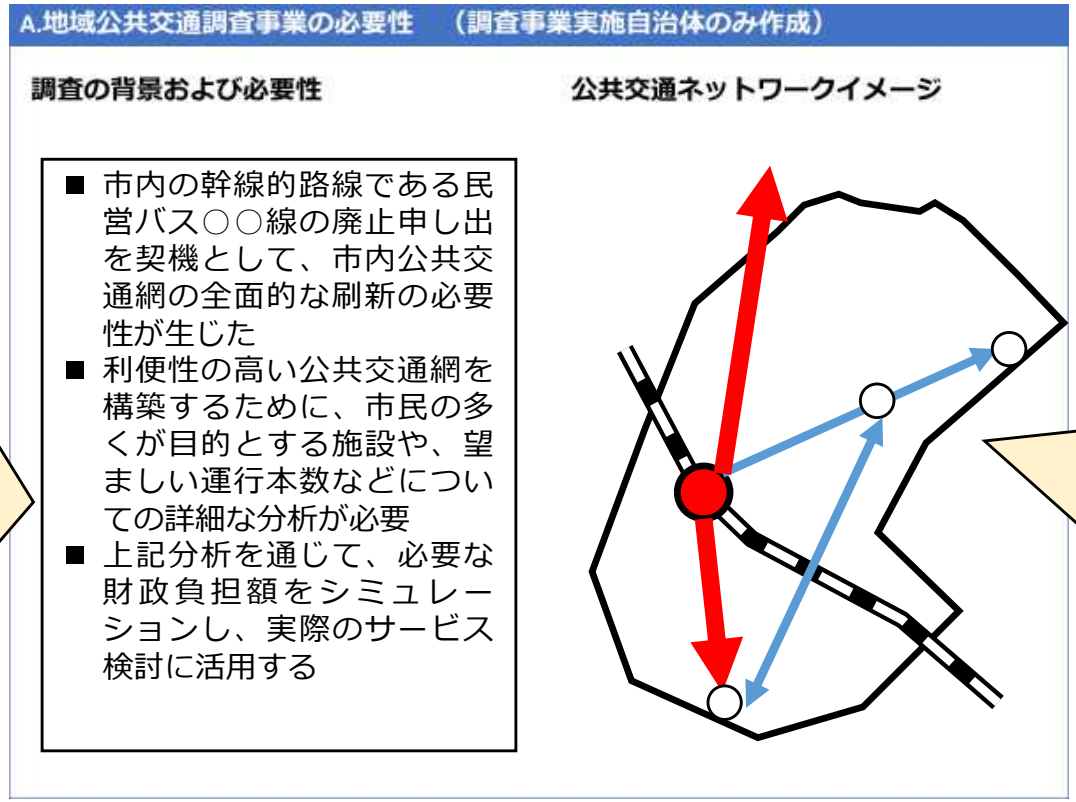
直近1年間の協議会や部会、地域説明会などの開催状況を記載しましょう。
主な議題なども記載するとよりわかりやすいでしょう。



本スライドは第三者評価委員会において発表は不要です。
（委員は事前に資料に目を通しますので、作成して下さい）

【作成のポイント】
調査の背景となる**地域の抱える交通課題**について記載しましょう。

交付申請書（様式5-1　別紙）の「1.当該地域の公共交通の概況・問題点」「2.目指す交通計画と策定調査の必要性」から要約して作成するとよいでしょう。



公共交通ネットワークの状況がわかるイメージ図を掲載して下さい。現在のネットワークと、将来目指す姿を比較するなどわかりやすくして下さい。

- 交付申請書の内容を要約して、地域の抱える交通課題など、計画策定の背景やその必要性がわかるようにまとめて下さい
- 計画がすでにある場合（計画更新の場合）には、旧計画で取り組んだ内容の総括や残された課題についても記載するようにして下さい

【作成のポイント】
調査方法や、**調査の結果明らかになったこと**を具体的に記載しましょう。

調査の具体的な方法や、その内容について説明して下さい

B.地域公共交通調査事業の内容と結果　（調査事業実施自治体のみ作成）

実施した調査およびその結果明らかになったこと

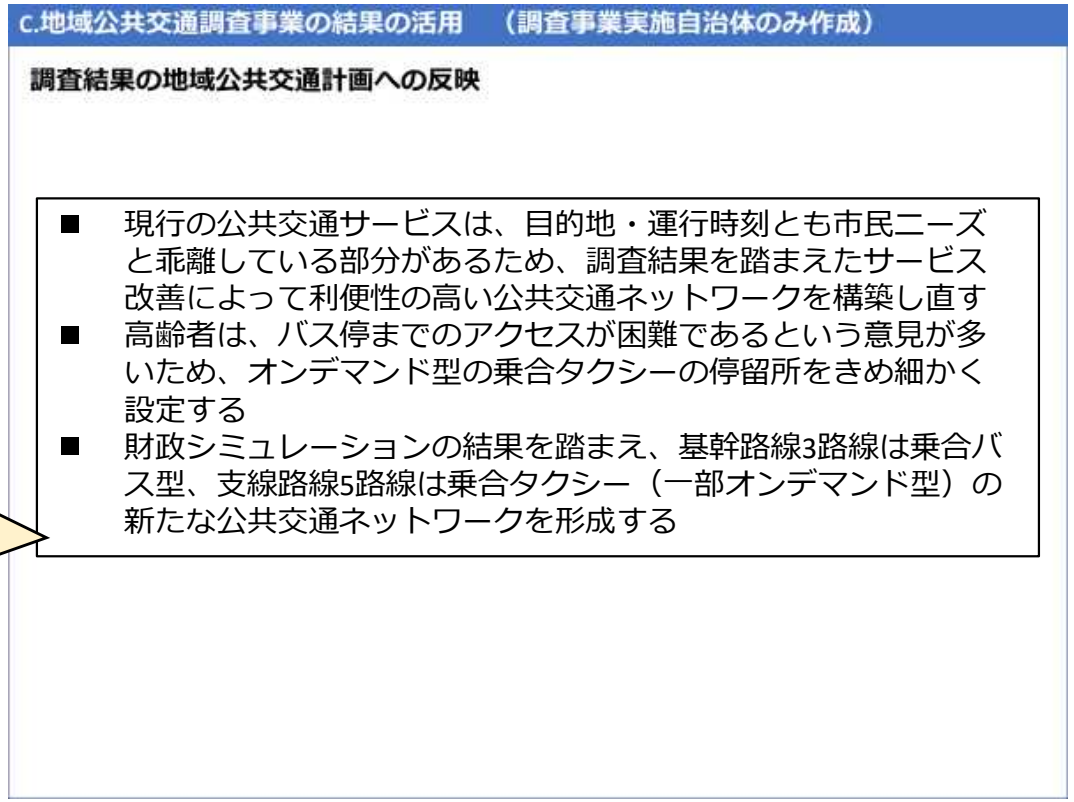
事業内容	結果概要
市民アンケート 全市民より3000世帯抽出 移動の目的地、時間、満足度などを質問	回収率45% 市民病院、ショッピングモールへの移動ニーズが高いが、通勤利用は少ない 通学に不便を感じている世帯が多い
高齢者グループインタビュー 高齢者団体（5地区）を対象 移動ニーズについてのインタビュー	免許返納後の移動に対する不安が大きい バスの運賃が高いという意見が多い タクシーの台数が少なく、午前中の利用が制約されるとの意見
財政負担シミュレーション 新たな公共交通網と運行本数の場合の財政負担額について、上記調査のニーズを踏まえてシミュレーション	新たに検討した公共交通ネットワークとサービスを実施した場合、財政負担が4000万円/年の増加と推計 一部サービスをバスから乗合タクシーに変更することで増加幅を3000万円/年まで圧縮可能

調査の結果明らかになったこと、調査事業が途中の場合は、途中経過や今後のスケジュール等の概要を記載して下さい

- 本省様式　別添1の「①事業の結果概要」に記載する内容に沿って記載するとよいでしょう。
- 調査方法については、アンケートやグループインタビュー、GISによる解析など、具体的な内容を記載して下さい。
- アンケートやグループインタビューの場合、対象者やサンプル数・回収率、実施時期・回数などについても記載して下さい

【作成のポイント】
調査結果を地域公共交通**計画にどのように反映するか**について記載しましょう。

調査結果が新たな計画の取組にどのように反映されているのかがわかるように記載して下さい



□ 調査結果を、計画の事業検討にどのように反映したかを説明して下さい。

自己評価と第三者評価の関係と中部様式の記載内容

各協議会で行われる自己評価では、地域公共交通計画に基づき実施している取組の効果を総合的に把握するとともに、それぞれの路線の利用状況や各種事業の実施結果についても評価を行うことが求められます。

第三者評価委員会においても、補助金対象事業や計画策定時に作成した目標の達成度のみを議論の対象とするのではなく、自治体・協議会の取組全てを対象としてアドバイスします。

取り組み全てを対象とする理由：
①国が補助金によって各自治体の取り組みを支援することが、地域公共交通計画に基づくその他全ての事業の効果的な実施や、地域公共交通ネットワークをよりよいものとすることに役立っているかどうかという観点から評価を行うため
②目標の達成状況について、現在の結果に係る経緯を明らかにすることにより、今後改善すべき点についてより具体的に評価を行うため

このため、中部様式の作成にあたっては、補助金対象路線のみについて様式に記載するのではなく、自治体・協議会で取り組んでいる事業全体のあらましが分かるように記載した上で、その中で補助金対象路線がどのような役割を担っているのかを記載して下さい。

【中部様式の体裁について】
・資料は必要最低限のボリュームとして、原則として各項目につきスライド1枚に収まるように心がけて下さい。
・文章で記載することは極力避け、箇条書きや体言止めで簡潔に説明。適宜図表を活用してください

【発表について】
・各協議会等の割り当て時間：説明は5分程度、委員質疑・評価10～15分程度です。
・タイトルが青いスライドは発表に使用しますが、タイトルが緑のスライドは書面提出のみです。このため、発表時は青いページのみ発表して下さい。
・当日の発表において強調したい部分はあらかじめ文字色を変えるなどするとわかりやすくなります。
・資料発表後、委員との質疑・評価の時はカメラをオンにしてご対応ください。

中部様式の作成や発表の際には、以下の項目に気をつけると効果的です。

□ 取り組んだ事業内容だけでなく、その結果得られた効果を説明しましょう

バスマップを3000部作成し、全戸配布	バスマップを3000部作成し、全戸配布した後、担当課にバスに関する問い合わせ電話が2割増加 ➔市民が興味を持つきっかけとなった

□ 決定事項だけでなく、プロセスを説明しましょう

○○地区にオンデマンド交通を導入	自治会の要望を受けて、地域との意見交換会を1年間に10回開催した結果を踏まえ、○○地区にオンデマンド交通を導入

□ 直近に力を入れた事業や、大きな変化や効果があった内容

○○バス××線の減便意向を受けて、利用促進重点路線に指定し、沿線老人クラブとタイアップした「バスで買い物ツアー」や、沿線小学校でのバス乗り方教室などを実施した結果、利用者が増加に転じた

□ （調査事業の場合）調査を実施した結果分かったことと、計画への反映予定

ニーズ調査の結果、コミュニティバスを隣市の○○駅に乗り入れて欲しいという意見が多数
➔○○市と調整の上、今計画において実施に向けた取組を予定

□ 前回の第三者評価のアドバイスを受けて取り組んだこと

第三者評価委員会において、コミュニティバスと路線バスの乗継改善についてアドバイス
➔4月のダイヤ改正において乗継を考慮したダイヤに変更

中部様式作成や発表の際のポイント

- 中部様式の作成および第三者評価委員会での発表は、**各地域における取組を改善するためのプロセス**の一つです。

- このため、中部様式の作成にあたっては、過去の資料の時点修正をするのではなく、直近の取組状況を整理した上で、それに対する**考察をしっかりと行う**ことが重要です。

- **考察を行うことで、具体的な改善のポイントが明らか**となり、今後の取組を有効に実施することにつながります。また、評価委員から専門的な見地に基づいてのアドバイスを受けることが期待できます。